

## 東京審美会の歯科矯正サクセスストーリー

最近、舌側矯正に関するご相談が増えています。

最近では、私が開設管理者をしていた青山審美会のような舌側矯正専門院でない医院で治療を受けて、疑問を持たれた患者さまからのご相談が多くを占めています。

舌側矯正で舌粘膜がえぐれてしまったが、粘膜病変が起きているのではない？  
将来、舌癌になるのではないか？

と怯えている患者さまからのご相談や、青山審美会が主催する舌側矯正講習会を受講していただいた歯科医師の先生からは、舌側矯正で治療を行っているが、どのようにスペースを閉じたらよいだろうか？どのようにワイヤーを曲げたらいいのだろうか？と診療後に歯型の石膏模型を持参していらっしゃる場合など、ご相談はさまざまです。

舌側矯正の経験不足や、粘膜病変の病理的知識の欠如、また噛み合わせと顎関節の病態について知識不足の未熟な医師による矯正では、将来、さらなる治療が必要になる場合がございます。また、本当に舌側矯正が自分に向いているのかを再度検証して、よりよい矯正ライフを思い切り楽しんでいただければと思います

CLASS I 叢生 上顎舌側矯正 下顎頬側矯正による症例

(術者 中田圭祐)

〈治療前〉 上顎だけ舌側矯正（リング矯正）を希望されました。



〈治療中 1〉 下顎は頬側に装置を装着していますから、舌粘膜を傷つけません。



〈治療中 2〉 実は下側は、口唇や頬に隠れて装置が見えないのです。



〈治療中 3〉 このように、上顎と下顎とで、別々の装置の組み合わせも可能です。



〈治療後〉 歯ならびをきれいにして、すっきりと清潔な口元になりました。

